

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構  
平成28年度契約監視委員会（第3回）議事録

1. 日 時 平成28年12月15日（木） 14：30～17：30
2. 場 所 農研機構 特別会議室
3. 出席者 木村委員長、伊東委員、高橋委員  
小林（一）委員、平田委員、小林（栄）委員

4. 議 題

(1) 農研機構からの報告・提案

- ① 前回委員会での要請に対する報告
- ② 随意契約、一者応札・応募の点検数量について

(2) 平成28年度第2四半期に実施した契約案件の点検

- ① 競争性のない随意契約（13件）（平成28年7月～平成28年9月）
- ② 一者応札・応募案件（58件）（平成28年7月～平成28年9月）

(3) その他

5. 議事概要

上記議題について事務局からの説明後、点検が行われた。主な内容は以下の通りであった。

(1) 農研機構からの報告・提案

- ① 前回委員会での要請に対する報告  
・特になしの旨報告した。

(2) 平成28年度第2四半期に実施した契約案件の点検

① 競争性のない随意契約

・競争性のない随意契約について点検が行われ、昨年度一般競争入札により契約した特許調査、分析、コンサルティング業務について、業務の継続性や契約相手方を限定する根拠が不明確であることから、今年度においても一般競争入札の方向性を検討すべきであったとの指摘があった。

また、機器の試作における「競争性のない随意契約によらざるを得ない事由」について、契約相手方が特定される場合は、随意契約の妥当性を判断するための事項を適切に記載するよう要請があった。

② 一者応札・応募案件

・一者応札・一者応募に関して入札方法、不参加者へのアンケート調査、予定価格の積算などに関し点検が行われた。

点検の結果、「新規・継続案件に対する今後の対応」について、複数業者が幅広く参加するよう入札説明書の仕様を工夫する等、一者応札・一者応募を解消するための対応を記載するよう要請があった。

また、労働者派遣業務について、募集要件の特殊性はあるものの、より競争性を確保し、契約金額を下げる工夫、努力が必要との意見があった。

③ 随意契約新規案件の事後報告

- ・事後報告 5 件の競争性のない随意契約について点検が行われた。

①競争性のない随意契約における点検の結果、新規案件の特許調査、分析、コンサルティング業務について、一般競争入札の方向性を検討すべきであったとの指摘があった。

以 上